

彦根市新市民体育センター建設を見直し

「ひこね燦ぱれす」を残すことを求める請願

紹介議員

角井英明

中川睦子

杉山向洋



【請願趣旨】

2024年に開催予定の国民スポーツ大会(国体)に関連する彦根市の建設事業計画に対して、多くの市民から不安の声があがっています。

年間8万人もの利用者があった旧体育センターは、市民の「残してほしい」という声に背を向けて、解体されました。その後、彦根市は、工費82億円の巨額な新体育センター計画を発表しました。金亀公園整備などを含めると国体関連予算は110億円にも及びます。

新市民体育センターの建設費が巨額になった主な理由は、国体のハンドボール競技のためのコート2面と2700席の観覧席、2つの弓道場を作ったことによるものです。床面積は、旧体育センターの3倍近くにもなります。わずか2週間の国体を優先した計画です。福井、愛媛県などこの間の開催地では、財政を圧迫しないよう既存施設を工夫して活用しています。国体後の体育センターは、市民全体の健康増進のための施設として利用されますが、市民からは「大きすぎて使いにくい」「利用料が高くなるのでは」「ランニングコストが市財政を圧迫するのでは」など心配の声が出ています。

新市民体育センターの建設計画にはさらに重大な問題点があります。建設予定地の一角にある「ひこね燦ぱれす」を解体・新築することです。市民のくらし関連の予算をバツサリと削っておいて、今後30年も使える現施設を壊すことなど到底考えられません。厳しい財政のもとでは、使える施設は最後まで使うのが当たり前のことではないでしょうか。

過大な新市民体育センター建設計画などでふくらむ市の財政赤字のツケを市民に押し付けることのないよう、市民のくらしを守る立場から、下記のことを要望し請願します。

【請願事項】

1. 過大な「彦根市新市民体育センター」の建設計画は市民の利用を最優先に見直すこと
2. 「ひこね燦ぱれす」を残すこと

2019年12月4日

請願者代表

住 所 彦根市西今町820-2

エクセルシア207

氏 名 中江研介



彦根市議会議長 馬場和子 様